

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立東小学校

1. 本年度の全国学力・学習調査結果の学力の概要について

- ・対全国比の平均正答率は、国語・算数では高く、理科ではやや低い結果でした。
- ・国語の調査では、「知識・技能」について良好な結果でした。本校の校内研究における「話し合い活動」の授業研究や、これまでの漢字の反復学習の成果だと考えられます。一方で、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域については課題が見られました。
- ・算数の調査では、「思考・判断・表現」について良好な結果でした。本校が自力解決の時間を確保し、考えや意見を持ってグループや全体で深める学習展開を大切にしている成果だと考えられます。一方で、「変化と関係」の領域については課題が見られました。
- ・理科の調査では、実験や観察の結果を基に自分の考えを持ち、その内容を記述することについて良好な結果でした。一方で、他者の気付きを分析したり、解釈したりして自分の考えを持つことに課題が見られました。

2. 各教科における成果と課題について

	成 果	課 題
国語	<ul style="list-style-type: none">・登場人物の相互関係について、描写をもとに捉える問題の正答率が高くなっており、普段から全学年で行っている「読書活動」の成果がうかがえます。・今回初めて全国調査で取り上げられた「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える」問題の正答率が高く、校内研究のテーマとして重点的に取り組んでいる「話し合い・伝え合い」活動の成果がうかがえます。	<ul style="list-style-type: none">・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題に課題があります。今後の授業で、自分の書いた文章を読み直したり、話し合いの中から良いところを取り入れて文章を書き直したりする学習活動に意識的に取り組んでいきます。・記述式問題の無解答率が高く、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけて書く問題に課題が見られます。
算数・数学	<ul style="list-style-type: none">・問題の意味を理解し、必要な情報をデータから読み取る問題の正答率が高くなっています。・長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さをかく問題の正答率が高くなっており、図形の意味や性質およびプログラムの順番について定着しています。	<ul style="list-style-type: none">・百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める問題では、全国平均を下回っています。数量の関係を正しく捉えることに課題が見られます。・記述式の問題の無解答率が高く、自分の考えを整理して文にまとめ、他者に分かりやすく伝える活動に取り組んでいきます。

理科

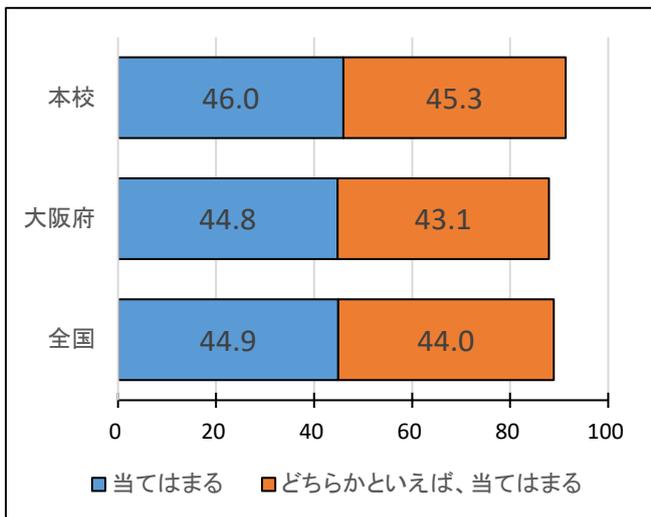
- ・実験の過程や得られた結果を適切に記録しているかどうかをみる問題の正答率が高く、実験における適切な記録の取り方について理解できています。
- ・自分の観察の記録と、追加された観察の記録を基にまとめを見直して書く問題において正答率が高くなっています。

- ・観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つ問題では、全国の正答率を下回っています。
- ・記述式の問題の無解答率が高く、実験結果を理解できても、文章表記することに課題が見られます。普段の授業において、実験や観察の結果からわかることをまとめて書く活動を意識する必要があります。

3. 児童質問紙調査の結果の概要について（肯定的評価の割合）

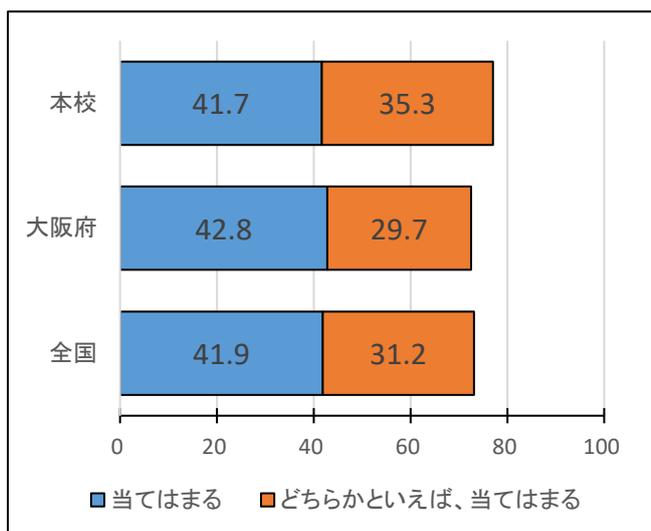
〈取組みの成果があらわれている、または特徴的であると思われる事項について〉

人が困っているときは、進んで助けていますか



「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問に対する肯定的回答の割合が、国・府平均値を上回りました。本校はめざす子ども像を「誰に対しても思いやりの心を持ち、仲間と支え合う子」と位置づけ、「認め合う」「学び合う」「助け合う」「高め合う」学習活動を大切にしています。特になかよしタイム（縦割り班活動）では、高学年の子どもたちがリーダーとして、下級生にあたたかい声かけをしている場面をよく見かけます。

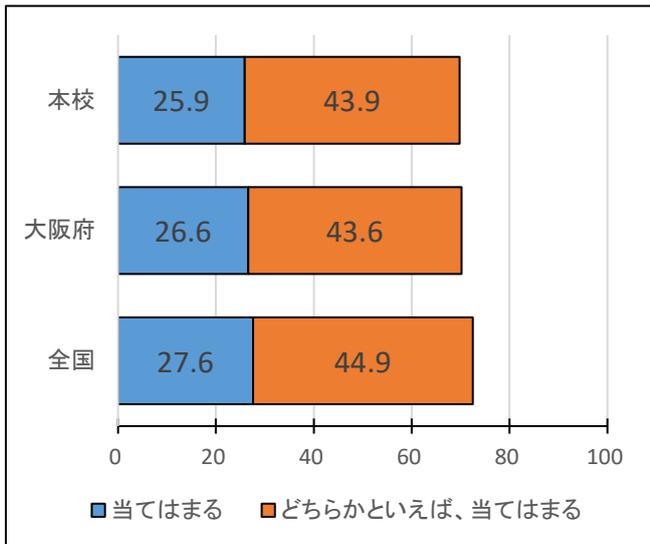
読書は好きですか



「読書は好きですか」の質問に対する肯定的回答の割合が、国・府平均値を上回りました。読書の経験は、子どもたちに豊かな感情や学力の基礎を育みます。本校では、常時配置されている学校図書館司書が、図書室の整備等、読書環境の充実に努めています。また、図書ボランティアや地域ボランティアの協力のもと、読み聞かせの会を行ったり、毎週朝の読書タイムを実施したりする等、子どもたちの読書経験を豊かにする取組みを進めています。

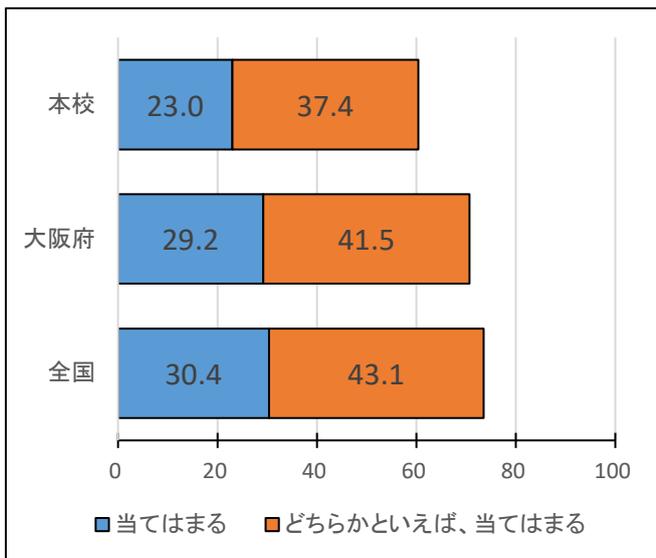
〈今後に向けて、課題と思われる事項について〉

難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか



「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」の質問に対する肯定的回答の割合が、国・府平均値を下回りました。社会が変化するスピードは大変めまぐるしく、今後「予測困難な時代」が到来するといわれています。そのような時代の流れにあっても、子どもたちが取り残されることなく、自分の進路を自分で切り開いていけるよう、子どもたちが主体的に「選択する」「判断する」「まずやってみる」教育活動を計画的に取り入れてまいります。

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問に対する肯定的回答の割合が、国・府平均値を下回りました。本校では「子どもたちの意欲とつながりを作る授業づくり」を目標に、「話す・聞く」学習活動や、話し合い活動の工夫改善に取り組んでいます。自分の考えと異なる友達の意見に出会ったとき、お互いの意見を尊重して納得解を導き出すことができるよう、今後の話し合い活動で意識的に指導してまいります。

4. 成果と課題を踏まえた今後の取組みについて

(1) 授業における「説明する」「書いて読んでもらう」学習活動の充実

今回の調査では、国語・算数・理科の全教科で記述式の問題の無解答率が高く、課題が見られました。国語は「自分の文章のよいところを見付ける」力を問う出題で、算数は「除法で求めることができる理由を記述できる」力を問う出題で、理科は「分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」力を問う出題で、特に課題が顕著でした。このことから、子どもたち一人ひとりが授業で「自分の考えを相手に説明する」「自分の考えを記述し、相手に読んでもらう」機会を設定し、説明する経験を積み重ねていくことができるよう、授業改善を進めてまいります。

(2) 1人1台端末の活用

本校では、授業における意見交流や調べ学習の場面で、1人1台端末の積極的な活用に努めています。上記(1)「説明する学習活動」の充実の観点から、今後は1人1台端末を活用して自分の考えや意見、根拠となる情報や資料をまとめ、それを相手に示しながら伝えることで、「自分の考えを相手に説明する」学習活動の充実を図ってまいります。

(3) 「力だめしプリント」の取組み

本校では、4・5・6年生を対象に「力だめしプリント(国語・算数)」を各学期に1回行い、全国学力・学習状況調査で明らかになった課題について、子どもたちの力の伸びを確認する取組みを行っています。この取組みの成果もあり、子どもたちに「分類されたデータをもとに、目的に応じてデータの特徴を捉えて考察する」力や、「目的に応じてグラフを選択し、必要な情報を読み取る力」がついてきています。今後も「力だめしプリント」の取組みを継続し、今回明らかになった課題に関わる出題を通して、子どもたちの学力の状況を確認し、授業づくりに反映していきます。

5. 保護者・児童のみなさんへ

〈保護者の皆様へ〉

全国学力・学習状況調査の結果から、これまでの本校の取組みの成果や、今後の課題が明らかになりました。成果に結びついた取組みについては、今後も継続・充実していくとともに、今後の課題と改善の方向性について全教職員で共有し、授業改善に取り組んでまいります。今回の調査では、国語・算数において良好な結果でした。このことは、授業で学習した内容を、各家庭のご協力のもと、宿題等の家庭学習で定着できたことが、成果につながったものと考えております。今後も学校と家庭の連携を密にして、子どもたちの指導を進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解・ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

〈児童のみなさんへ〉

今回の調査で、みなさんの中には「人が困っているときは、進んで助けている」人が多いことがわかりました。東小学校の先生方は、「誰に対しても思いやりの心を持ち、仲間と支え合う子」を育てたいと考えており、今回の結果をととてもうれしく思っています。これからも思いやりの心、仲間と助け合う心を大切に、学校生活を送っていきましょう。

一方でみなさんには、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」ことに取り組んでほしいと思っています。これからの社会では、「初めて経験する課題でも、自分なりの解決の見通しを立てて、まず取り組んでみる」力が求められます。東小学校の先生方は、皆さんのチャレンジする気持ちを応援しています。失敗を恐れず、自分なりのペースで、じっくり課題と向き合い、チャレンジしてほしいと願っています。